



## 楽をしないからこそその楽しさ

数年前、テレビで日本古来の製鉄法である「たたら製鉄」に心血を注ぐ職人の特集番組を観ました。世界的にもその芸術的価値が評価されている刀匠による日本刀の制作に欠かせない唯一無二の素材が、たたら製法でつくる「玉鋼（たまはがね）」だそうです。良質の玉鋼をつくるために12人の職人が集まり、村下（むらげ）と呼ばれる棟梁を中心に、3昼夜交替制で火力（木炭）と空気の流れの調整、砂鉄の投入を行っていました。今の時代、機械やAIを活用すれば、火力や空気の調整など効率的にできそうなものの、それらを一切使わず、窯を粘土で作るところから、火をおこし、窯の火を調整する、砂鉄の投入、ノロ（鉄滓）の排出など 全てが手作業で、五感で感じ、経験をもとに調整していくという決して楽ではない工程でした。デジタルで便利な時代になぜそこまで苦勞するやり方で行うのか。番組の中で印象的だった言葉を紹介します。

### 「楽をしないからこそ味わえる楽しさがある」

もちろん、もの作りですから、手作業で丹念に仕上げたものの味わいは、デジタルでつくるものに勝るといえるでしょう。ただし、この言葉には、それだけではなく、人として生きることの本質が表れているように感じました。楽ではないけれど、手作業で時間をかけて苦勞しながら進めていく過程が楽しいということでしょうか。これは人類に生来備わる本能的に求めるもので、人間が人間たるゆえんの営みなのだろうと思います。

子どもの勉強や私たちの日々の営みにも当てはまることに思います。学習や生活の中へのデジタル機器の導入によって、遠く離れた世界のことがとても身近にリアルに体験できるようになっています。また、物事が効率化され生産性は上がっています。しかし、もしかしたら本当の楽しさを味わう機会は減ってきているのかもしれない。勉強は、まだ知らないことを知る、知らないことを研究することであり、苦勞して調べたり、考えに考えて答えを導きだしたり、解決策をさぐるプロセスが楽しいものなのでしょう。

## 保護者アンケートへのご協力ありがとうございました

### 【速報】

| 肯定評価 A, (A+B), B が前年比より伸びている質問項目 | A      | B      | C  | D |
|----------------------------------|--------|--------|----|---|
| *単位は% ()内は昨年度比                   |        |        |    |   |
| 子どもは学校や学級が楽しいと感じている              | 30(+8) | 65     | 5  | 0 |
| 学校行事が充実している                      | 30(+8) | 65     | 5  | 0 |
| 学校の情報はよく伝わっている                   | 54(+7) | 50     | 3  | 0 |
| 保護者として足を運びたい学校である                | 16     | 71(+4) | 11 | 2 |
| 次年度以降 A 評価を伸ばしたい質問項目             | A      | B      | C  | D |
| 子どもは社会性が身についている                  | 17     | 67     | 15 | 1 |
| 子どもは勤労を尊ぶ心が育っている                 | 22     | 63     | 12 | 3 |
| 学級や部活動ではいじめがない                   | 33     | 57     | 7  | 3 |

